

泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 初発有転移腎細胞癌例に対する *cytoreductive nephrectomy* の意義に関する検討

[研究機関] 北海道大学病院泌尿器科

[研究責任者] 篠原 信雄（泌尿器科・准教授）

[研究の目的]

初発有転移腎細胞癌例で原発巣切除術が行われた患者さんで行われなかった患者さんの予後を調査し、初発有転移腎細胞癌患者における原発巣摘除術の意義を評価すると共に、予後に影響する因子を統計学的に検討し、原発巣摘除術が有効と思われる患者集団を明らかにすることを目的とします

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成13年1月1日から平成22年12月31日までの10年間に、初発有転移腎細胞癌と診断された患者さんを対象とします。

●利用するカルテ情報

- ・患者背景（性別、生年月、年齢、診断日、初診時の主訴、ECOG PS、Karnofsky score）
- ・腎癌の状態（患側、腫瘍径、TNM分類、転移部位、転移臓器数、血液検査結果）
- ・原発巣の外科的治療（腎摘除の有無、手術日、手術術式、転移部完全切除の有無、リンパ節郭清の状態、診断のための生検の有無）
- ・原発巣の病理組織（組織分類、組織学的異型度、Fuhrman grading、TNM (pathological stage)、静脈侵襲、Sercomatoid成分の有無、腫瘍壊死 (necrosis)
- ・転移巣に関する治療（腎摘除術前後の全身治療の有無とその開始日、種類（サイトカイン治療、分子標的治療、その他）、及びその効果、腎摘除術未施行例では全身治療の有無とその開始日、種類（サイトカイン治療、分子標的治療、その他）及びその効果、転移巣切除の有無と施行日及びその術式
- ・治療後の経過

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院泌尿器科 担当医師 篠原 信雄

電話 011-716-1161 FAX 011-706-7853